

岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ3次計画 第2次岸和田市食育推進計画(案)に関するご意見の要旨と本市の考え方

令和7年1月6日から令和7年2月5日まで、市ホームページ等においてご意見を募集したところ、1名 計3件のご意見をいただきました。お寄せいただきましたご意見(要旨)と、ご意見に対する本市の考え方について、次のとおり取りまとめましたので報告いたします。

番号	ご意見(要旨)	本市の考え方
1	<p>学校給食において地域の農産物・水産物を活用する割合の増加 30%以上を目標とされていますが、地場産野菜は全校配送できないと断られたこともある中で、JA などと連携して進める方向で考えている、考えていくということでしょうか。価格が高くなれば、今の給食費内では厳しいです。</p>	<p>給食の時間は、子どもたちへの食育を効果的に進めるために、欠かすことのできない大切な時間です。学校給食で地場産物を活用し、食に関する指導の教材として用いることにより、地域の食や食文化等について理解を深めることができる機会となり、食文化の継承に繋がります。</p> <p>地場産物の使用量・使用品目の確保が困難な現状や給食費の制約などもありますが、引き続き取り組みをすすめていきます。</p> <p>また、学校給食における地場産物の使用割合の目標値については、前計画では 30%以上としていましたが、本計画では、現状を踏まえ、令和 18 年度の最終目標値を令和4年度の現状値より増加としました。</p>
2	<p>取組み内容の「給食で積極的に果物を取り入れるようにします」について、学校給食では、衛生面や作業面、価格等でなかなか取り入れられていないのが現状です。</p> <p>増やしていくのは難しいのではないのでしょうか。</p> <p>この給食という言葉は、保育所や幼稚園も含めてということでしょうか。</p>	<p>給食を提供している保育所(園)や幼稚園を含んでいます。</p> <p>くだものは、食物繊維やビタミン、ミネラルなど、健康な身体づくりに欠かせない栄養素を多く含んでいます。同時に、旬のくだものを食べることで季節の移り変わりを感じることができ、味覚も育ちます。</p> <p>くだものの摂取量について、国では1日 200gを目標としていますが、現状は、平均 100g未満で、特に若い世代で摂取量が少なくなっています。</p> <p>くだものを摂取することの必要性の周知をはかり、家庭での取り組みの推進に努めると同時に、給食でもできる限り取り入れられるよう取り組みを継続していきます。</p>
3	<p>取組み内容の「給食における残食を減らすように努めます」について、少食や苦手だからと減らした分を、おかわりできる人が食べることで、見かけ上は残食ゼロでも、必要以上に食べ過ぎている人がでてきている危険もあります。残さず食べる指導はかなり気をつけています。</p>	<p>本計画の推進にあたり、貴重なご意見として今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>